http://www.hosp.pref.okinawa.jp/chubu/
沖縄県立中部病院 広報誌

ゆい ちゅうぶ

2014
8
vol.33

第3回 健康あるある
ハブクラゲについて

■切り取って集めておくと便利！

第3回
健康あるある 救急対応
ハブクラゲについて

沖縄の海洋生物によるケガで、ハブクラゲによる被害が全体の6割以上を占めており、今回はハブクラゲに刺された場合の対処について説明します。

ハブクラゲは重症化しやすく、死亡例も報告されています。主要なビーチには「クラゲ侵入防止ネット」を設置しているが、設置されていないビーチでの事故は後を絶たず、毎年100～150件の被害が発生しています。

刺されたら食酢をたっぷりかけて触手を洗い落とし、剥がれ落ちない場合は手で取り除きます。酢をかけたとき以外には素手で触ると刺される可能性があるので絶対に触らないようにします。水やアルコールなどは使用してはいけません。痛みがあれば冷水もしくは氷嚢で冷やします。

命に関わる強いアレルギー反応を起こすことがあり、息がゼイゼイしたり気分が悪くなった場合などにはすぐに救急車を呼びます。

たとえそのような症状が無くても、傷跡から感染したり傷跡が残ったりすることもあり医療機関の受診が望ましいです。

キリトリ線　キリトリ線

ちゅうぶ Show
-病院機能評価を受審して-

「ちゅうぶshow」では中部病院ならではの取り組みをこっそり紹介します。

当院では、より良い病院作りを目指して7月17日・18日の2日間、病院機能評価を受審しました。「病院機能評価」とは、病院が組織的に医療を提供するための基本的な活動（機能）が、適切に実施されているかどうかを第三者の目で評価してもらうものです。評価内容は病院の様々な部署に関連するもので、1年前より準備を重ね、予行演習では看護部以外の集まりが悪く心配していましたが、本番ではほぼすべての部署の職員が結集し、積極的に答えることができました。講評では素晴らしい病院であると絶賛？と称され、中部病院は何かが全職員がそれに向かってまとまる「チームワークの良さ」を再確認することができました。また、7月17日は偶然にも松本院長の誕生日にあたり、審査終了後、誕生祝いのサプライズイベントを行い、中部病院が一つになった一日となりました。

（副院長　上原　元）

県立病院・リレー連載
ヤンバル歳時記

県立北部病院勤務　桑江千賀子　特派員

7月には珍しい大型台風8号「ノグリー」が去った後には熱い夏の到来です。夏の風物詩といえば「花火」。全国各地で花火大会が開催されます。

ここヤンバル、海洋博公園花火大会の花火も有名な花火大会のひとつです。打ち上げ数一万発、県内最大級の規模、毎年趣向を凝らした仕掛け花火がビーチの夜空を彩ります。花火の大きな音に心が躍り、夜空に色とりどりの花を咲かせる花火にワクワクした後は家路の渋滞も苦？にならないですよね。

この花火大会は、子どもたちとって夏休みのスタートの合図ともなります。海、山、河で楽しい夏休みが過ごせるといいですね。ヤンバルはあなたを待っています～。

沖縄県立中部病院へのお問合せ
〒904-2293 沖縄県うるま市宮里281
TEL：098-973-4111（代）
FAX：[代表] 098-973-2703
[地域連携室] 098-982-6568
沖縄県立中部病院　検索
ホームページ　http://www.hosp.pref.okinawa.jp/chubu/

7月2日からの2日間、移動ミュージアム「ホスピタル・トイ・キャラバン」の県内巡回イベントの一貫として、「病児の遊びとおもちゃケア」沖縄フォーラムが開催され、当院の小児科外来、小児科病棟でおもちゃと触れ合う機会がありました。

9月開催案内
平成26年9月13日土曜日 17時30分より
当院駐車場構内にて赤道南大通り会主催：観月の夕べ
（共催：赤道東大通り会・中部病院職員互助会）

pickup!
第3回
口腔外科

[地域連携室便り]
[ぽっちゃりナースのスリム化プロジェクト]

pickup!

第3回

口腔外科

文：上田　剛生

歯科口腔外科では口腔・顎顔面領域の疾患の治療、院内患者様の口腔ケアに取り組んでいます。

歯科口腔外科とは

親知らずの抜歯などの小手術、下顎骨折など外傷に対する手術、専門的な技術を要する口唇口蓋裂などの先天性疾患や顎変形症の一貫治療、口腔領域の腫瘍や嚢胞の手術、また顎関節症、口腔粘膜疾患、歯性感染症などの治療を行います。

口唇口蓋裂は

日本では約500回の出産に1回の割で発生するといわれています。

口唇口蓋裂があると、唇や上あごが割れているために、哺乳や発音、歯ならびやかみ合わせなどに問題を生じることがあります。このような問題に対し、手術療法に加えて言語療法、歯科矯正など様々な専門科と連携しながら治療をすすめています。

顎変形症の治療は

顎骨の変形を直すことにより、かみ合わせの改善を行うため、歯科矯正治療との協力が必要です。当科では歯科矯正専門医が在籍し協力して治療にあたっています。

また、顎骨の変形を直すので、見た目が改善されることによる、患者さんの精神的・社会的な向上を目指しています。

口腔腫瘍には

主に顎骨にできるエナメル上皮腫、歯牙腫などの歯原性腫瘍と、主に粘膜にできる乳頭腫、線維腫、血管腫などの軟組織腫瘍、および唾液腺にできる多形性腺腫、腺リンパ腫などがあります。これらの疾患に対して形態と機能を考慮した治療を行っています。

歯性感染症とは

口腔領域の感染に伴う細菌性の炎症は、虫歯や歯周病が原因となるこが多く、体の抵抗力が低下したときにおこります。初期治療が遅れると重症化し、蜂巣炎、壊死性筋膜炎など極めて重篤な感染症に発展することがあります。炎症に対しては局所の洗浄、抗菌剤による薬物療法、手術療法を行います。

口腔顎顔面外傷

口腔顎顔面外傷の原因は軽微な外力によるものから、転倒、転落、交通事故や作業事故など様々です。軟組織の損傷、骨折や歯の脱臼などが複合して起こってきます。そのため審美性や咬合機能の回復などを考慮した治療を行っています。

口腔ケア

近年、口腔ケアについて「清潔や口腔内の局所的感染防止だけでなく、全身的な重症感染症の予防など治療医学的意義が認識されている」といわれています。病院施設においても、口腔ケアを重点的に試行している所が多くなりました。V・ヘンダーソンは、「口腔ケアは看護の質をもっともよく表しているものの一つである。」と強調しています。当科でも、口腔管理が十分行き届いたレベルの高い病院作りに貢献すべく口腔ケアの実践と普及啓蒙に努めています。

地域連携室便り

201408号

病院完結型医療から地域完結型医療への転換が進み、医療機関ごとの機能分化はますます顕著になっています。このことはすなわち近隣の施設および医療機関との密接な協力関係が不可欠であることを意味します。

そこで、２０１４年５月13日から６月24日にかけて、日頃お世話になっている近隣の回復期病院、老人保健施設および療養型病床を運営する医療機関にご挨拶に伺いました。

■北中城若松病院、若松苑　5月13日
■陽光館　5月13日
■翔南病院　5月14日
■信愛の丘　5月16日
■いずみ苑　5月20日
■名嘉病院　5月20日
■与勝病院　5月21日
■願寿の森　5月26日
■沖縄リハビリテーションセンター病院、亀の里　5月26日
■屋宜原病院　5月27日
■ほくと会北部病院　5月28日
■潮平病院　5月30日
■北谷病院　6月18日
■北上中央病院　6月19日
■ちゅうざん病院　6月24日

病院長、副院長、事務部長、看護部長、副看護部長、地域連携室室長および地域連携室師長が３人ないし４人のグループを作り分担して訪問し、ご意見を伺いました。患者さんを紹介あるいは当院からの逆紹介を受ける中で不都合なこと、改善を希望することをお聞きしました。検討中の解決策とともに主な要望を記します。

(1)患者搬送に付き添った場合、すぐに帰してもらえないことがある。老健施設、療養型医療機関とも少ない職員でケアーを行っており搬送がすんだらできるだけ早く職場に戻りたい。

【検討中】来院時に患者把握のために必要な情報をあらかじめ設定、標準化して確実、簡便に記入できるシートの作成。

(2)担当医から直接、退院調整の連絡がある。患者の疾病に関する詳細な情報が得られる点では重宝するが、入院病棟における調整、受け入れ態勢の準備やご家族との調整が不十分でかえって転院までに時間を要することがある。

【改善実施中】医師、病棟スタッフへ転院プロセスの再周知をはかるとともに、退院調整看護師及びＭＳＷが介入する体制を整えました。

いずれの医療機関においてもお忙しい中、当院の訪問を快く受けていただきました。ご意見を伺う中でどちらともなく話題になったのは平成26年度診療報酬改定で「在宅復帰率」がクローズアップされていることでした。厚労省のあげる重点課題には「医療機関の機能分化・強化と連携、在宅医療の充実」とあります。住み慣れた環境で生活できることは誰もが望むことですが、現実には自宅に戻れず在宅関連施設はおろか在宅への中間施設や医療機関に長期入院せざるを得ない方々が少なくありません。

今回、複数の医療機関を訪問し施設内を見学させていただき、改めて現実と制度のギャップを認識する結果となりました。それだけに医療機関相互の連絡を密に取り協力、共に成り立つ体制の構築と維持が重要だと考えます。

主人公：P子

ぽっちゃりナースのスリム化プロジェクト

ぽっちゃりナース代表

P子のスリム化プロジェクトはいよいよ開始となり、早２ヶ月が過ぎました。まず、P子に自己の食べっぷりを毎食記入（※1）してもらい、食生活の見直しをしました。いわゆる「レコーディングダイエット」です。食欲旺盛な彼女にとって、食事制限は厳しいかもしれませんが、ダイエットは運動よりも食事が重要！ということで、「食事の組み合わせ」「量より質」「30回噛んで食べる」というアドバイスの元、なんと２ヶ月でマイナス６kgの減量となりました。

P子の変化としては、体重計を購入した事、そして何よりも人生初のダイエット本を購入した事です。自らの意思で始めるからこそ減量の道は近いのです。そして何よりも、心強いのが病棟スタッフのサポーターがついたことです。次回は、サポーターとの協力についてお話します。

	朝食	昼食	夕食
1日目（日勤）	水	弁当大1個 水	回転すし20皿 赤だし 揚げ物
2日目（休み）	10:30 なす味噌炒め定食 （卵焼き付）	13:00 生クリームたっぷりクレープ 蒸しポテト 照り焼きチキンバスケット	ステーキ350g ポタージュスープ サラダ
3日目（深夜勤）	スコーン2個/バームクーヘン1個 クラムチャウダースープ大 ガーリックパン2枚サラダ/生ハム	シュークリーム1個 ゆで卵3個	魚介豚骨つけ麺 餃子5個 ごはん1杯 ロールケーキ3切れ

（※1）「P子のある３日間の食事メニュー」